

35 地域生活を支える駅周辺のまちづくり

(1) まちの拠点機能を向上させる

●駅周辺地区の整備

区内の駅周辺では、交通広場やアクセス道路などの整備が必ずしも十分ではない状況がある。また、利便性や安全性を高め、商業活動の活性化を図る必要がある。

このため、区内の各駅周辺を中心核、地域拠点、生活拠点と位置づけ、交通広場や道路の整備を進める。さらに、便利でにぎわいのある商業環境などの生活利便性を向上させるなど、まちの拠点としての整備を進めている。

●練馬駅周辺整備

練馬駅周辺は、区役所を始め、警察署、消防署などの行政機関や、郵便局、文化センター、図書館、生涯学習センターなどの公共施設が集まっている。また、業務施設、商業施設の集積度も高い。しかし、道路や駅前広場など都市基盤の整備が遅れていたため、交通混雑を引き起こし、商店街の活性化や発展にも弊害をもたらしていた。

そこで区では、練馬駅周辺を中心核と位置づけ、道路や駅前広場を始めとした都市基盤の整備を進めるとともに、2年度には「練馬駅周辺地区街づくり構想」を作成（5年度に一部修正）し、この構想に基づいてまちづくりを推進している。

駅北口地区においては、区として初めて都市計画決定した区画街路1・2号線が5年3月に完成した。また、駅北口公共駐車場は7年7月に、北口交通広場やペDESTリアンデッキ（橋のような歩行者専用通路）は西武池袋線の高架化に併せて15年3月に完成した。

駅北口の練馬一丁目地内では、道路の拡幅整備に併せてまちづくりの実現を図るため「練馬駅北口地区地区計画」を21年6月に都市計画決定した。

駅南口地区においては、区画街路3号線が7年2月に、区役所前立体区道（やすらぎ歩道橋）が9年6月に完成した。

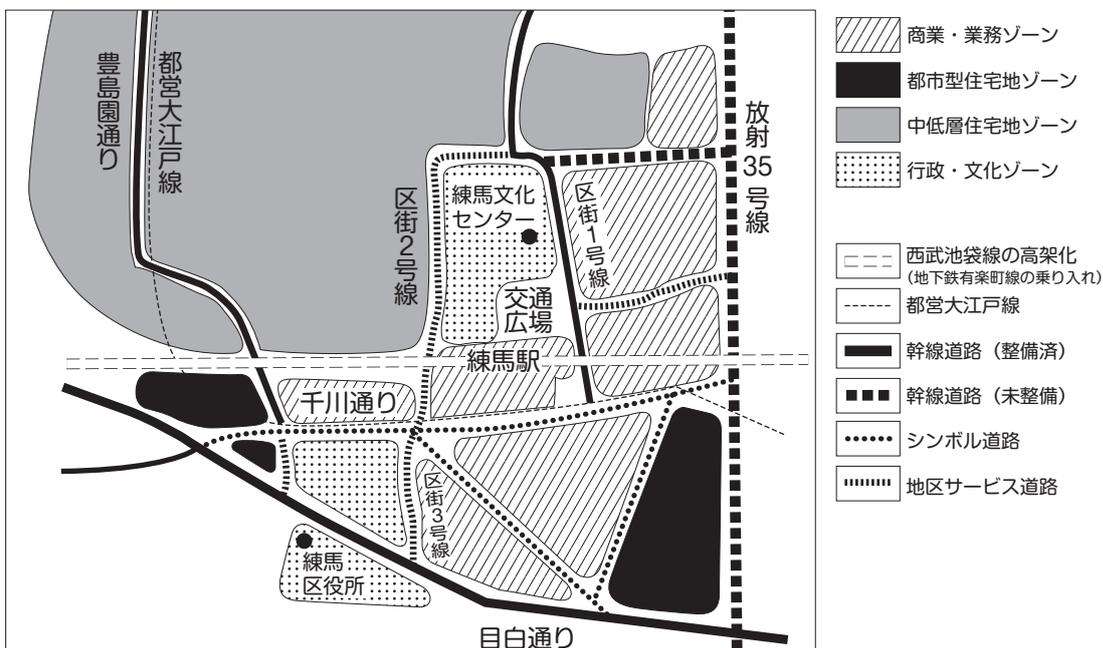
豊玉北五丁目地区においては、区内で初めて「街並み誘導型地区計画」を活用した「練馬駅南口地区地区計画」を16年12月に都市計画決定した。また、道路の無電柱化が23年3月に完成した。

●石神井公園駅周辺整備

石神井公園駅周辺は、公共機関や商店が多く、周辺住宅地を含めた地域の中心的役割を果たしている。また、都立石神井公園の玄関口でもあり、地区外からの来訪者も少なくない。

このような状況にもかかわらず、駅に通じる道路は狭く、駅前広場や道路、踏切など駅周辺の交通環境の整備が十分とはいえない状況であったため、鉄道の高架化や駅前広場の整備を行い、現在、都市計画道路の整備を進めている。

〔練馬駅周辺土地利用方針〕



1 整備の方針

区では石神井公園駅周辺地区を区西部における地域拠点の一つと位置づけ、機能の向上を図るため、駅北口地区市街地再開発事業を実施してきた。

15年6月には、「石神井公園駅周辺地区まちづくり全体構想」を策定し、つぎのような整備方針に基づいて総合的なまちづくりを推進している。

- (1) 地域の交通拠点機能を高めるため、車、歩行者の利用特性に応じた駅周辺道路を整備する。
さらに、駅に集中する交通を処理、連結する「交通結節機能」と、駅利用者が憩い、集い、語らう「広場機能」とをあわせ持つ駅前広場を整備する。
- (2) 西武池袋線の鉄道高架化を契機として、交通環境の改善と南北地区の一体的な土地利用の形成を図る。
- (3) 商業と住宅が調和した駅前商業地を形成するとともに、土地の高度利用を図る。

2 駅周辺まちづくり事業の推進

区では、「石神井公園駅周辺地区まちづくり全体構想」に基づきまちづくり事業を推進してきた。27年3月には南口駅前広場の整備が、29年3月には西武池袋線の連続立体交差事業が完了した。

27年8月以降は、これまでのまちづくりの進展を踏まえ、改めて、今後のまちづくりについての地域住民からの意見を聞くため「石神井公園駅周辺地区まちづくり懇談会」を6回開催している。

また、29年2月には、駅南口西地区で結成された準備組合において検討中の市街地再開発事業について、区民に報告し、意見を求めるため「検討状況報告会」を開催した。

●上石神井駅周辺整備

上石神井駅周辺は、商店が多く西武新宿線の急行停車駅でもあり、まちの発展の可能性を多く秘めた地域である。

しかしながら、駅に通じる道路が狭く、駅前広場がないために、バスや自動車、歩行者、自転車などが集中し、^{ふくそう}輻輳している。また、踏切により市街地が南北に分断されているため、踏切部では常に、交通が混雑し事故の危険性をはらんでおり、深刻な課題となっている。

そのため、鉄道の立体化と駅のすぐ西側に計画されている都市計画道路「外郭環状線の2」の早急な整備が求められている。「外郭環状線の2」については、27年12月から現況測量、28年12月から用地測量を東京都と共に実施している。また、これらの基盤整備にあわせて地域の拠点にふさわしいまちづくりを行う必要がある。

1 整備の方針

20年3月に「重点地区まちづくり計画（上石神井駅周辺地区）」を策定し、道路交通、商業、住環境、防災、ユニバーサルデザイン、景観、土地利用の7つの視点から整備方針を定めている。

2 まちづくり事業の推進

区では、地域住民からの提言を踏まえて、今後のまちづくりの方向性を示した「重点地区まちづくり計画（上石神井駅周辺地区）」に基づき、まちづくり事業を推進するため、「外郭環状線の2」の沿道をはじめ、本地区にふさわしいまち並みの形成や駅前広場の整備、商業の活性化等の検討を地域住民等との協働により行っている。

●生活拠点の整備

練馬駅・石神井公園駅・大泉学園駅・光が丘駅・上石神井駅を除く各駅周辺地区を生活拠点として位置づけ、地域の状況にあわせて道路整備などと連動しながらまちづくりを進めている。

1 江古田駅周辺地区

18年6月に「江古田駅北口地区地区計画」を都市計画決定し、ゆとりある歩行者空間の確保と、良好な街並みの形成を目指している。

2 中村橋駅周辺地区

17年1月に「中村橋駅南口地区地区計画」を、25年3月に「中村橋駅北口地区地区計画」を都市計画決定し、住環境の保全と活力ある市街地の形成を目指している。

3 富士見台駅周辺地区

23年2月に重点地区まちづくり計画を策定し、密集住宅市街地整備促進事業にあわせて、まちづくりを進めている。

4 保谷駅周辺地区

29年2月、保谷駅周辺地区まちづくり協議会において取りまとめた「まちづくり提言書」が区に提出された。今後は提言書を踏まえ、まちづくり方針の策定に向けた取組を進めていく。

5 東武練馬駅南口周辺地区

22年11月に「東武練馬駅南口周辺地区地区計画」、27年1月に「北町二丁目西部地区地区計画」を都市計画決定し、魅力ある、安全で快適なまちづくりを目指している。

6 西武新宿線沿線地域

26年5月に武蔵関駅周辺地区、26年11月に上井草駅周辺地区において「重点地区まちづくり計画」を策定し、地域の骨格事業である鉄道の立体化と都市計画道路の整備を見据え、まちづくりを進めている。